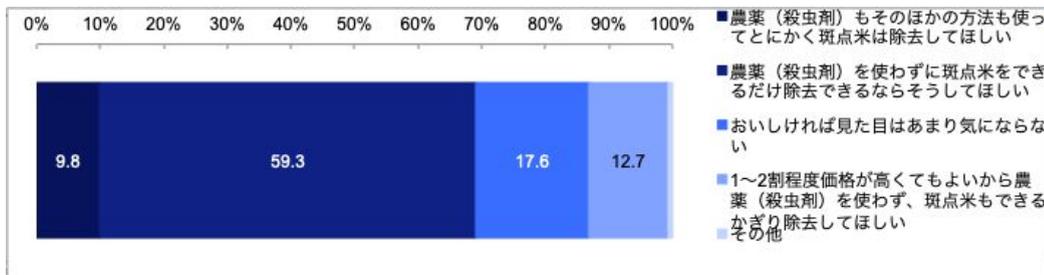


農薬による斑点米の除去希望は、わずか1割未満 ——消費者、1200人に調査

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパンは、カメムシが出穂期に穂の汁を吸うことで生じる黒い点のある米「斑点米」の混入に対して消費者がどのような考えを持っているかを調べるため、2019年3月に、20代～70代以上の各年代の男女100人、合計1200人を対象に意識調査を行いました。

調査の結果、消費者の認識や、お米に求める品質が、お米の等級制度と著しく乖離していること、そして、農薬を使用してでも斑点米の除去を重視する人は1割程度にとどまることが明らかになりました（参考：資料編 問3～6、グラフは問6より）。



【調査背景】

1等、2等など米の等級付けを定める農産物規格・検査や等級制度は消費者や農家から、実態を伴っていない、見た目重視で農薬を無駄に使わせている、などの意見が従来からありました。この農産物規格・検査について農林水産省は、2019年1月から「農産物規格・検査に関する懇談会」を開催し、3月に「中間論点整理」¹が出されました。この中間論点整理では、「着色粒（斑点米）の基準については、消費者が求める水準や色彩選別機での除去は相当なコストを伴うことなどを考慮すれば、基準の緩和は難しいのではないか。」とされています。つまり、消費者が斑点米の混入に求める水準が厳しいことが厳しい基準につながっているように示唆されています。

しかし、中間論点整理の根拠の一つとされた、農水省が2015年に実施したアンケートのうち消費者を対象とした調査によると、消費者の斑点米混入に対する見方が必ずしも厳しいとは読み取れませんでした²。ただし、同調査は、対象人数が142人と少なく、消費の中心世代の一つである40代が8人（5.6%）しか含まれていません。

¹農林水産省農産物規格・検査に関する懇談会
農産物規格・検査に関する懇談会における中間論点整理（2019年3月）
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kensa/attach/pdf/kondan-29.pdf>

²農林水産省2019年1月28日農産物規格・検査に関する懇談会（第1回）資料
「別添農産物検査（お米）に係るアンケート結果について」
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kensa/attach/pdf/kondan-7.pdf>

このため、早ければ8月にも開始されるとみられていた農林水産省の検討会を控え、グリーンピースは以下のような観点から、1200人を対象に実施したアンケート調査を実施し、公開しました。

- ・ 消費者はお米の等級についてどのように理解しているか
- ・ 消費者は斑点米について、他とくらべて特に厳しい見方をしているか
- ・ 斑点米対策として農薬（殺虫剤）を散布してでも斑点米除去に厳しい水準を求めているか

斑点米をめぐる議論

斑点米はカメムシが若い稲穂の汁を吸うことが原因で、1000粒に1粒以下（0.1%）なら1等に認定、0.3%以下で2等、0.7%以下で3等となり、等級が下がると米の価格も下がってしまう。1等と2等の価格低下の幅は60キロあたり600円～1,000円にもなる³。

農家はカメムシを殺すために、出穂期に大規模な農薬（殺虫剤）散布を行わざるを得ない。毎年、稲穂の出る時期に、水田地帯で無人ヘリやドローンによる農薬の空中散布が行われ、それは花粉媒介を担うミツバチの大量死を引き起こしてきた。

しかし、着色粒は色彩選別機で取り除くことができ、機械の性能も高くなっているため、水田に殺虫剤を散布する必要はない。こうした実態を伴わない農産物規格・検査や等級制度については、農薬を無駄に使わせるとして10年以上前から批判があり⁴、米どころの秋田県の県議会や農業委員会、町村議会などからも基準の見直しや廃止の見直しを求める意見書が出ている⁵。

【主な調査結果】

- ・ 米の等級があるということを知っていた人は65.3%いたが、等級が何の目安かを尋ねた設問では、「見た目（色や形など）」*と正解できた人は14%にとどまった。「食味（おいしさ）」と答えた人が65.1%と最も多く、安全性も7.8%となっており、消費者の理解と甚だしく乖離していた（参考：資料編 問2、3）。

[*米の等級は、農家が米を出荷する際に受ける農産物検査の際に、米粒の色や形などを目視することによって判定される]

³ 『知っていますか？ 斑点米と農薬とミツバチ大量死』 2015年6月 米の検査規格の見直しを求める会
<http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/panf170715.pdf>

⁴ 「農産物検査からコメ着色粒の項目削除を求める要望」 2007年2月15日 68団体と145個人がを農水省に提出、など。
http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/doc01_070215_yobo.pdf

⁵ 「地方議会におけるネオニコ規制強化と着色粒規定廃止などを求める意見書」 2019.3.21 有機農業ニュースクリップ作

- ・ 米の購入時に最も重視されているのは「食味、美味しさ」で、次いで「値段」、3番目が「銘柄」。「米粒の外見」の重要度は、10の選択肢のうち9番目だった（参考：資料編 問4）

- ・ ご飯への混入で1番困るものとして選んだ人が最も多かったのは「虫」で、次いで「小石や砂粒」などいわゆる異物、3番目が「他の穀類」。なお、回答者がそれぞれ困るものとして1位～3位までに選んだものをそれぞれ点数化して合計点数で比較した場合、3番目が着色粒だった（参考：資料編 問5）

- ・ **斑点米を減らすために稲穂に農薬（殺虫剤）を散布することについては、斑点米除去のために農薬の使用を容認した人は9.8%にとどまり、農薬を使わないでほしいとした人、見た目は気にならない人など、農薬以外の選択をした人は89.6%にのぼった**（参考：資料編 問6）。

- ・ 「斑点米を機械でほぼ取り除けるなら、田んぼで農薬（殺虫剤）は使わないお米がいい」とした人が71.4%にのぼり、別の質問で、機械で斑点米をほぼ取り除くことができることを伝えたくて尋ねたところ、斑点米をとにかくなくしてほしいから念のため田んぼでも農薬（殺虫剤）も使ったお米がいいとした人は7.8%にとどまった（参考：資料編 問7）

- ・ 生産者の中には、こうした農薬散布は無駄で散布をしたくないとの考えがあることについては、選択肢があれば農薬を使わない米がいいとした人が56.8%にのぼったほか、34.6%が斑点米の基準の緩和や廃止に理解を示した（参考：資料編 問9）

【まとめと提言】

今回の調査により次のことが明らかになりました。

- ・ 回答者の65%以上が米の等級の意味を正しく理解しておらず、また消費者購入時に米に求めているもの（食味など）と現行の米の等級（外見）とは著しく乖離している。
- ・ 斑点米（着色粒）よりも虫や砂利などの異物混入のほうが消費者は困ると考えており、斑点米が異物より2倍も厳しい基準となっていることは消費者の関心を反映していない。
- ・ 農薬を散布しても斑点米がないことを優先する人は1割程度いるが、多くは、斑点米の混入について厳しくない。
- ・ 一等米も二等米も混ぜられて消費者に販売されていることを知ったあとでは、等級制度の廃止や緩和に賛成の人は65%にのぼった。これは農林水産省のアンケート結果と大きく異なるものだった。
- ・ 斑点米除去のための農薬を使わない方向を望む農家や、等級の緩和・廃止に好意的な回答は9割を超える。

以上から、今後開かれる検討会において、グリーンピースは以下のことを求めます。

- ・ 消費者、農業者の意見をより丁寧かつ正確に聞き取り、制度の見直しに反映させること。

- ・ 農薬散布をしても斑点米を除去してほしい人と、農薬を使わない方がよい人は、1：8程度であり、農薬を散布しない方がよいとする消費者のニーズに応え、農薬使用に疑問のある農家にも不使用の選択をしやすくするような制度設計を検討すること。

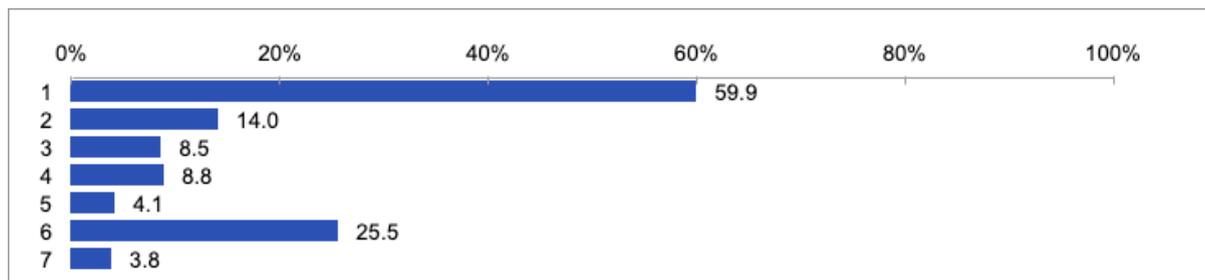
なお、農林水産省のアンケートでは、回答者が十分な情報なく回答している可能性があり、それを資料のひとつとした懇談会の中間論点整理も一般消費者の意見を反映したものとは言い難いことにも留意すべきです。

(注)

- グリーンピースが楽天インサイト株式会社に委託して実施したオンラインアンケート調査
- 調査期間は2019年3月25日～27日
- 回答者1200人：国内在住の20代～70代以上各年代の男女各100人

【資料編】

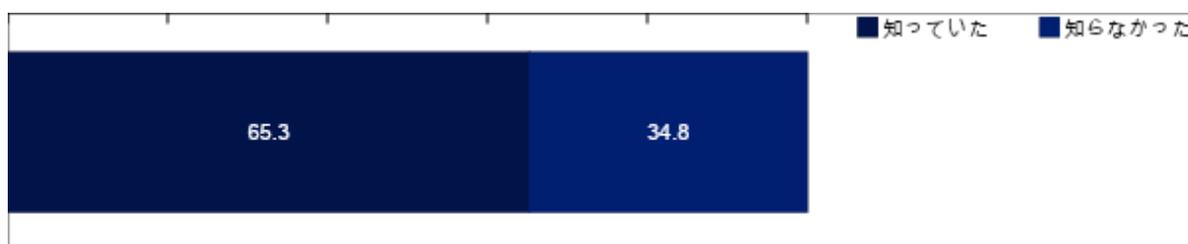
問1. 普段お米をどのように入手していますか。（いくつでも）



1.スーパー 2.ネット通販（生協、農家からの直接購入は含まず）3.生協（生協のインターネット販売を含む）4.農家から直接（インターネット販売を含む）5.米穀店6.身内や知り合いから分けてもらう（有償、無償とわず）7その他

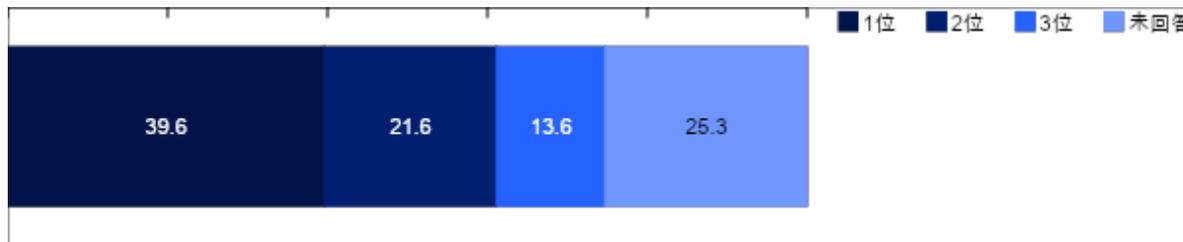
お米の購入先では「スーパー」が最も多く約6割で、「身内や知り合いから分けてもらう（有償・無償とわず）」が次いで多く、農家から直接購入する人と合わせると34.3%で、生産者がわかっているまたは身近にいる場合が多い傾向が見られた。

問2. お米に一等米、二等米、三等米など、「等級」があるということをご存知でしたか。



問3 お米の等級は主に何の目安だと思えますか。もっともあなたの考えに近いものを一つ

選んでください。

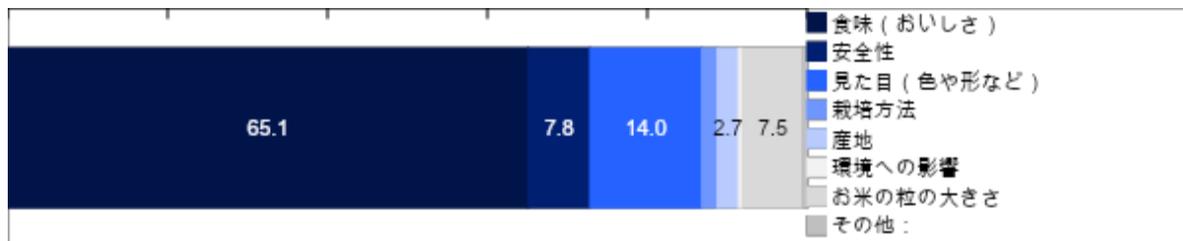


約65%が食味（おいしさ）を選択し、正しく回答できた人は、14%に過ぎなかった。

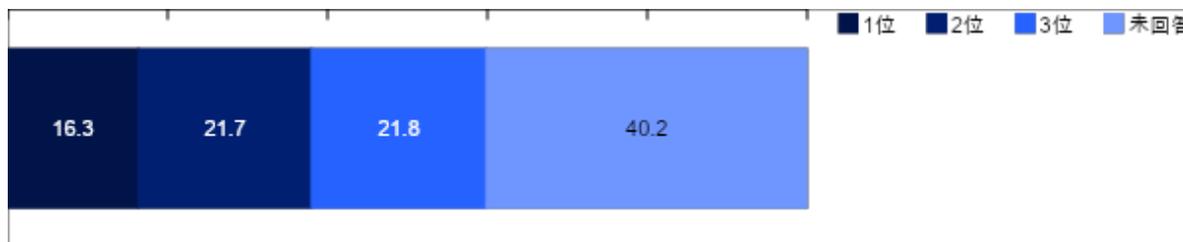
問4 お米を選ぶとき、何を重視していますか。最も重視するものから順に1位から3位まで選んでください。（順位をお選びください）

以下のグラフは最も重視するものとして選んだ人が多い順に掲載。最も多かったのが食味・おいしさ、2番めが値段、3番めが銘柄、米粒の外見は10の選択肢中9番目だった。グラフ中の「未回答」はその選択肢を選ばなかったことを意味する。1位を3点、2位を2点、3位を1点として人数に掛けて総合点数を出した場合も、優先順位は食味、値段、銘柄の順で変わらなかった。

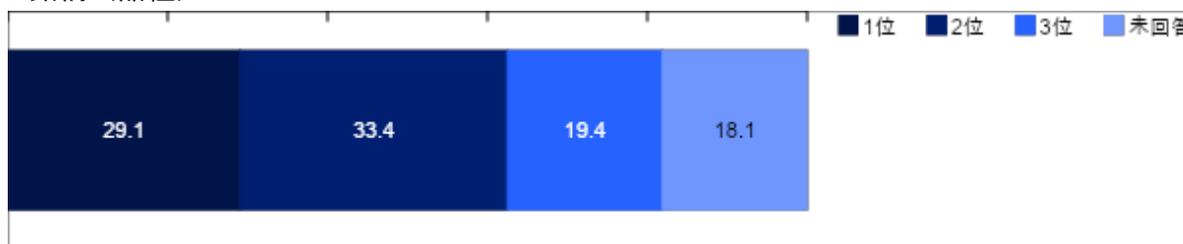
1. 食味・おいしさ（試食に限らず、見聞きした評判などを含む）



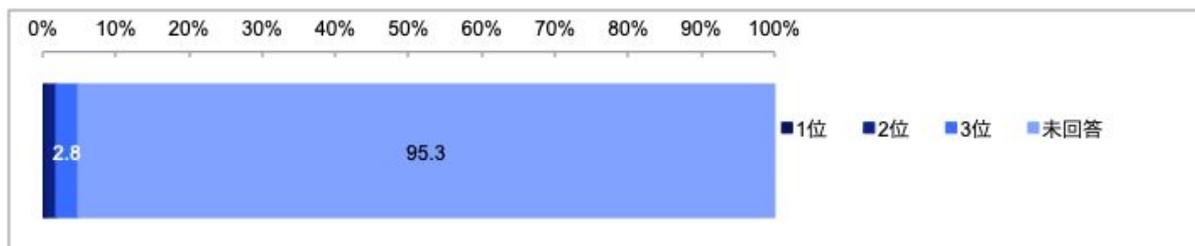
2. 値段



3. 銘柄（品種）



9. 米粒の外見



問5 ごはんに混入していたら最も困ると思うものを、困る順に1位から3位まで選んでください。（順位をお選びください）※1位から3位まで、すべてご回答ください。

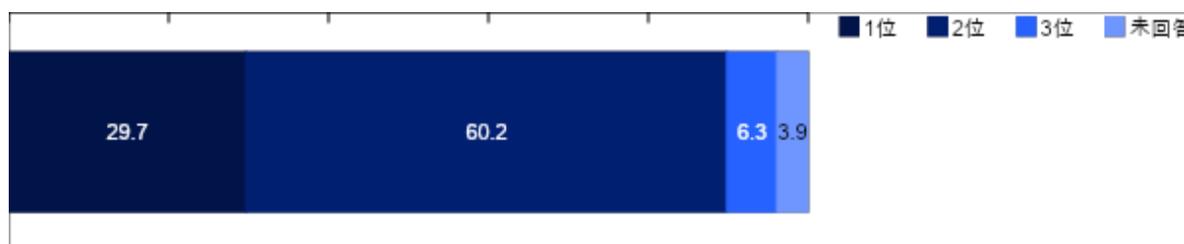
最も困るもの（1位）として選んだ人が多い順では、虫（787人）、小石・砂利（356人）、別の穀類（15人）、黒や茶色の筋や点のあるお米や、緑色っぽいお米、いわゆる着色粒（14人）の順となった。

また、1位～3位に選んだ人の合計人数は、多い順に、虫が1158人、小石・砂粒が1153人、着色粒が551人、別の穀類が282人などとなった。

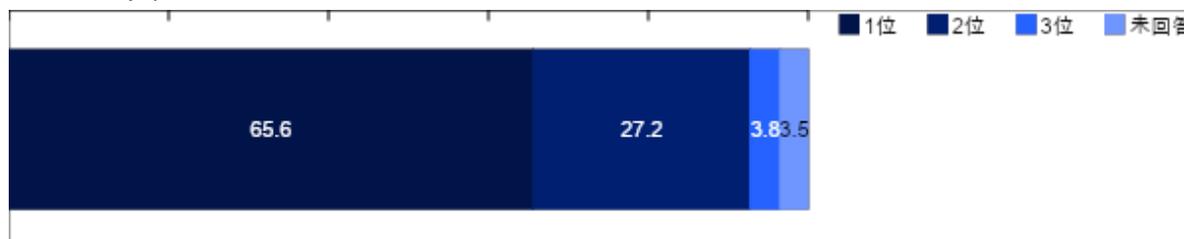
1位に3点、2位に2点、3位に1点として、それぞれ選んだ人数に掛けて総合点数を出すと、最も多かったのは虫（3058点）、次いで小石、砂粒（2587点）、いわゆる着色粒が3番め（637点）、別の穀類が4番め（334点）となった。**着色粒は3番めとなったが、1位、2位と比べると一桁小さく、消費者の主要な関心事項とまではいえない。**

（注：選択肢は他に、糲、砕けた米、不透明な白い米など）

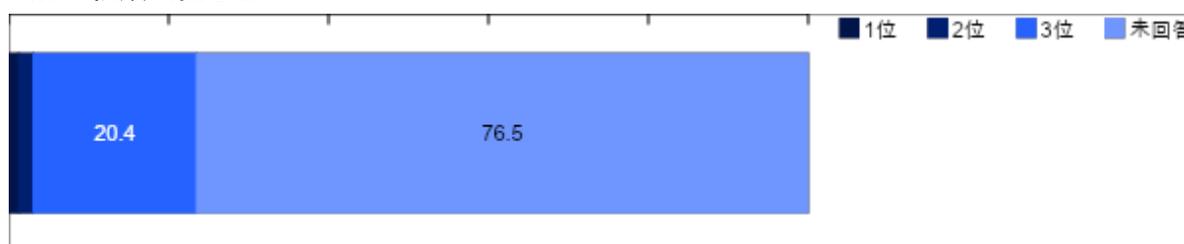
1. 虫



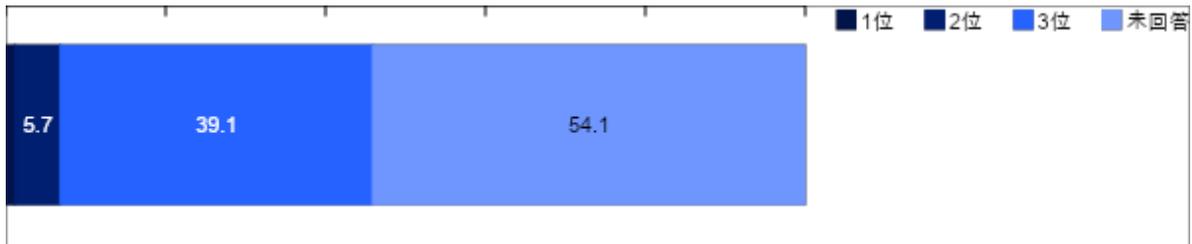
2. 小石・砂粒



3. 別の穀類（麦など）

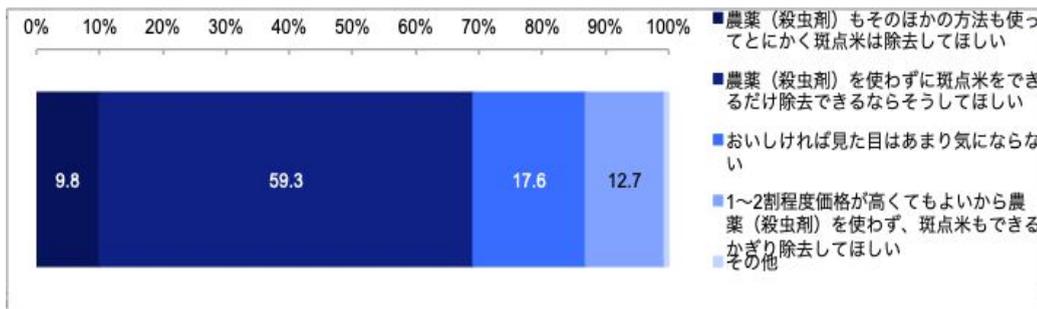


4. 黒や茶色の筋や点のあるお米や、緑色っぽいお米



問6 現在、多くの地域で「斑点米の発生を減らすため」として、稲の穂が出たころに、カメムシを殺す農薬（殺虫剤）が散布されています。家で食べるお米について、もっともあなたの考えに近いものを選んでください。※斑点米の写真を見せて尋ねた

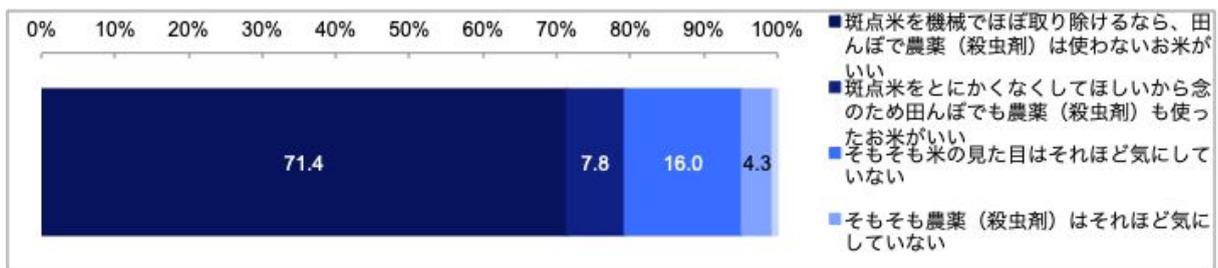
農薬（殺虫剤）を使わずに斑点米をできるだけ除去してほしいとした人が約6割にのぼり、おいしければ見た目はあまり気にならないとした人も17%いた。一方、農薬（殺虫剤）やそのほかの方法も使ってとにかく斑点米は除去してほしいとした人は9.8%いた。



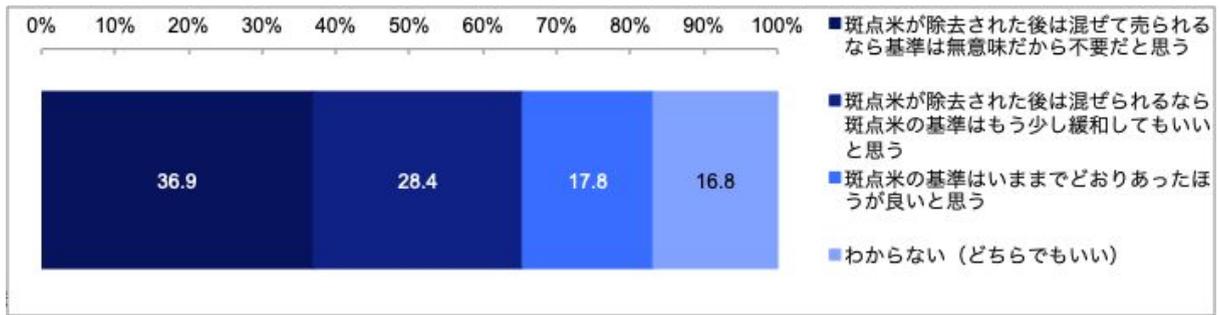
問7は、以下の説明文を読んでもらってからその下の設問に答えてもらった。

お米の等級を決める検査では、斑点米の混入が0.1%まで（お茶碗一杯のご飯に約3粒以下）なら一等米、3%まで（同4～9粒程度）なら二等米、といった厳しい基準に基づいて等級が決められます。農家からお米が買い取られるとき、一等米よりも二等米は600～1,000円（60キロあたり）も安くなってしまうため、農家は斑点米の原因になるカメムシを駆除するために田んぼに農薬（殺虫剤）を散布せざるを得ません。

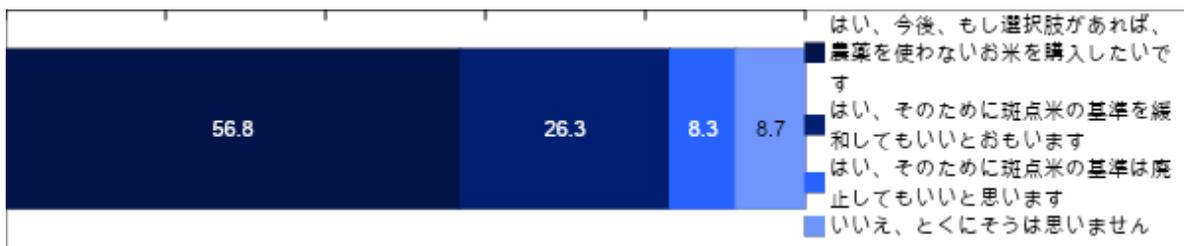
問7. 実は、斑点米が混入しても、玄米を精米する段階などで、機械でほぼ取り除くことができます。実際、販売されて消費者の手に届くお米も、生産者や流通業者が機械で斑点米を取り除いたあとのお米です。あなたの考えに最も近いものを選んでください。



問8 斑点米や異物などを機械で取り除いた後のお米は、一等米も二等米も混ぜられて消費者に販売されます。斑点米が等級を決める基準になっていることをどう思いますか。



問9 お米の生産者のなかには、こうした農薬（殺虫剤）の散布は無駄であり、散布をしたくないと考える人達も少なくありません。これについてどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。



【割付】

| | n | % |
|----------|------|-------|
| 全体 | 1200 | 100.0 |
| 男性 20代 | 100 | 8.3 |
| 男性 30代 | 100 | 8.3 |
| 男性 40代 | 100 | 8.3 |
| 男性 50代 | 100 | 8.3 |
| 男性 60代 | 100 | 8.3 |
| 男性 70代以上 | 100 | 8.3 |
| 女性 20代 | 100 | 8.3 |
| 女性 30代 | 100 | 8.3 |
| 女性 40代 | 100 | 8.3 |
| 女性 50代 | 100 | 8.3 |
| 女性 60代 | 100 | 8.3 |
| 女性 70代以上 | 100 | 8.3 |

性別

| | n | % |
|----|------|-------|
| 全体 | 1200 | 100.0 |
| 男性 | 600 | 50.0 |
| 女性 | 600 | 50.0 |

年齢

| | |
|-----|-------|
| 平均値 | 49.55 |
| 最小値 | 20.00 |
| 最大値 | 87.00 |

都道府県

| 全体 | 1200人 | 100.0% |
|------|-------|--------|
| 都道府県 | n | % |
| 北海道 | 45 | 3.8 |
| 青森県 | 10 | 0.8 |
| 岩手県 | 11 | 0.9 |
| 宮城県 | 19 | 1.6 |
| 秋田県 | 9 | 0.8 |
| 山形県 | 8 | 0.7 |
| 福島県 | 17 | 1.4 |
| 茨城県 | 26 | 2.2 |
| 栃木県 | 20 | 1.7 |
| 群馬県 | 18 | 1.5 |
| 埼玉県 | 69 | 5.8 |
| 千葉県 | 57 | 4.8 |
| 東京都 | 170 | 14.2 |
| 神奈川県 | 105 | 8.8 |
| 新潟県 | 23 | 1.9 |
| 富山県 | 6 | 0.5 |
| 石川県 | 17 | 1.4 |
| 福井県 | 2 | 0.2 |
| 山梨県 | 6 | 0.5 |
| 長野県 | 16 | 1.3 |
| 岐阜県 | 18 | 1.5 |
| 静岡県 | 39 | 3.3 |
| 愛知県 | 87 | 7.3 |
| 三重県 | 19 | 1.6 |

| 都道府県 | n | % |
|------|----|-----|
| 滋賀県 | 23 | 1.9 |
| 京都府 | 36 | 3.0 |
| 大阪府 | 86 | 7.2 |
| 兵庫県 | 56 | 4.7 |
| 奈良県 | 20 | 1.7 |
| 和歌山県 | 9 | 0.8 |
| 鳥取県 | 4 | 0.3 |
| 島根県 | 5 | 0.4 |
| 岡山県 | 9 | 0.8 |
| 広島県 | 25 | 2.1 |
| 山口県 | 7 | 0.6 |
| 徳島県 | 6 | 0.5 |
| 香川県 | 12 | 1.0 |
| 愛媛県 | 12 | 1.0 |
| 高知県 | 1 | 0.1 |
| 福岡県 | 34 | 2.8 |
| 佐賀県 | 2 | 0.2 |
| 長崎県 | 5 | 0.4 |
| 熊本県 | 9 | 0.8 |
| 大分県 | 6 | 0.5 |
| 宮崎県 | 6 | 0.5 |
| 鹿児島県 | 9 | 0.8 |
| 沖縄県 | 1 | 0.1 |
| 国外 | 0 | 0.0 |

年代

| | n | % |
|-------|------|-------|
| 全体 | 1200 | 100.0 |
| 20代 | 200 | 16.7 |
| 30代 | 200 | 16.7 |
| 40代 | 200 | 16.7 |
| 50代 | 200 | 16.7 |
| 60代 | 200 | 16.7 |
| 70代以上 | 200 | 16.7 |

<本件に関するお問い合わせ>

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン

広報担当 城野千里 Email : chisato.jono@greenpeace.org TEL : 080-6558-4446

食と農業担当 関根彩子 Email : ayako.sekine@greenpeace.org TEL : 090-1793-5423

TEL 03-5338-9800 FAX 03-5338-9817